

## 出羽三山のほ乳類

出羽三山の多様な環境は、山・森・湿原・小川から構成されており、全体が磐梯朝日国立公園内にあります。これらの住みやすく守られた生息環境には、様々なほ乳類が暮らしています。

ツキノワグマは、この地域で最大のほ乳類です。体重は 200kg に達する場合もあります。ツキノワグマは、冬眠するまで、1 年のほとんどを森で果物や木の実を探すことに費やします。ツキノワグマは一般に人間を避けまじ、攻撃的になることはめったにありませんが、自分の子どもをとにかく守ろうとすることはあります。山を歩く人は、予想外にクマに出くわすことを避けるのに役立つクマ除けの鈴を携行しておくべきです。その音が人間の存在をクマに知らせ、通常はクマの方で距離をとります。近い距離でクマに出くわしたら、突然の動きでクマを驚かせないよう、ゆっくり後に下がります。

月山のふもと周辺のブナの森や、羽黒山のスギの森には、たくさんのムササビが住んでいます。この夜行性の動物は、木の穴（ふつうは放棄されたキツツキの巣）で暮らしています。ムササビは、昆虫・木の実・果物・種子を探す際、その前足と後足の飛膜を広げることで、最大 200m も滑空することができます。

出羽三山の斜面は、ニホンカモシカ（学名：Capricornis crispus）の住みかです。この動物は、山を素早くよじ登ることができます。ニホンカモシカは日本を象徴する動物であり、特別天然記念物として保護されています。

この地域に生息する他のほ乳類には、オコジョ、テン（学名：Martes melampus）、日本固有のトウホクノウサギ、キツネ、コウモリ、およびさまざまなげっ歯類などがいます。日本の民話に重要な道化役として出てくるタヌキ（学名：Nyctereutes procyonoides viverrinus）もよく見られます。